



第53回全国大会「名古屋」'22 予告

コロナ禍で中断していた現地開催全国大会が『名古屋』'22として開催され、テーマは「カラー・レジリエンス」に決まりました。

◆会期：2022年6月25日（土）・26日（日）

◆会場：椋山女学園大学 星が丘キャンパス

◆招待講演

「アニメーションの色彩～スタジオジブリ作品を彩った保田道世氏について」

伊藤 望氏（三鷹の森ジブリ美術館・学芸員）

※招待講演に関連し「アニメーションの色彩」にちなんだ研究・作品も募集しています。

◆特別学術講演

「蟲（生き物）が観る世界を学び持続性社会を実現する蟲鳥学の創成」

針山 孝彦氏（浜松医科大学医学部・教授）

※どちらも6月25日（土）午後に計画中
◆研究発表申込期間：2022年1月17日（月）～2月7日（月）

※詳しい情報は、下記の大会サイトに掲載中です。発表の申込みを計画し、応募してください。

【大会サイト】

<https://www.color-science.jp/zenkoku2022/>

◆実行委員長：羽成隆司（椋山女学園大学）
（学会メールニュース No.256 から引用 永田泰弘）

●芥川龍之介の短編小説の色一 15

◆アグニの神（大正九年十二月）

上海の或る家の二階に占いの印度人の婆さんが住み、商人らしい亜米利加人が占いを頼みに来ます。300 弗を出して「日米戦争はいつあるか。わかっておれば大金儲けができるから。」と。婆さんは「明日いらっしゃい。私の占いは外れたことはない。アグニの神がお告げをなさるから。」と引き受けます。

二階には蠟のような色の少女がいて、窓から見えた顔を通りかかった日本人の書生が見かけ、日本領事の娘でさらわれた妙子であると見抜きます。二階の上がった書生はピストルで脅して妙子を取り返そうと試みますが、婆さんの魔法で追い返されます。

夜、妙子は書生に手紙で、アグニの神が乗り移ったふりをして、親元に返すよう告げるという手紙を下に落とします。

婆さんが魔法をかけ始めると妙子は眠ってしまいますが、男の声が「早速この女の子を返すが良い。」と告げます。

婆さんは妙子にナイフをつきつけますが、書生が飛び込んだ時、妙子は眠っており、真っ黒な顔の婆さんの胸にはナイフが刺さっていました。

◇色名は「青白い香炉の火の光」（永田泰弘）

●季語集の中の色名一 3

●蘭春（仲春）

踏青（たふせい）：春の野に若草を踏み歩いて遊ぶこと。（青きを踏む）

白酒（しろざけ）：雛祭りに用いられる米麴又は蒸米に味醂を混ぜて造る白いお酒。

紋白蝶（もんしろちょう）：白い小さい蝶。

紋黄蝶（もんきちょう）：黄色い小さい蝶。

緋桃の花（ひもものはな）：紅い桃の花。

白桃の花（しらもものはな）：白い桃の花。

白木蓮（はくもくれん）：白い花の木蓮。

白樺の花（しらかばのはな）：信州等の山岳や高原に暗紅色の花穂を垂れて咲く目立たない花。

堇（すみれ）：山野の路傍などに生える小さな草で紫色の可憐な花を開く。堇草・壺堇・花堇・山堇・初堇・にほひすみれ・堇野。

三色堇（さんしきすみれ）：三色は紫・黄・白を指す。

黄水仙（きずいせん）：庭などに植えられる多年草で六弁の黄色い花びらをもつ。3.4月に開花する。

仲春になると花が咲き蝶が舞う風景となり、「山路来て何やらゆかし堇草」と芭蕉の句が思い出される。踏青と言う優雅な遊びも死語となりしか。（永田泰弘）